

若者の未来を確かなものに
保護者の為の進路読本

～ FSGカレッジリーグ保護者説明会 ～



FSG COLLEGE LEAGUE
KORIYAMA FUKUSHIMA

若者達の“夢”と“力”が 未来の幸福と豊かさにつながると 信じています。

私達 F S G カレッジリーグが目指すこと

それは、未来の幸福と豊かさを実現するため、若者達の夢と実力を育むことです。

社会の大きな変化とともに、企業が学歴よりも、むしろ実力を評価するようになった環境において、「専門的な知識・技術と高度な資格を取得し、広い視野とコミュニケーション能力を兼ね備えた人材を社会に羽ばたかせること」それは、若者達の大切な将来を任された私達の使命であると考えます。

現代社会で本当に必要とされる幸福と豊かさの実現。

F S G カレッジリーグは、1984 年開校以来積み上げてきた指導ノウハウと、5 校 56 学科に及び充実した教育環境、1 万名を超す卒業生のネットワークに基づく就職支援体制を整え、教職員が一丸となって学生一人ひとりをサポートします。

若者達が、生まれ育った地域で、職業人としての基礎を学び、希望の企業で働く。そこで身に付けた「力」が周りの方々の幸福をもたらし、絆を生み、近くに住まうご家族達が、安心して暮らせる社会を生む。

これからの未来、若者達の教育、育成こそが、希望の光となると信じます。

INDEX

1. 専修学校とは	2
2. 専門学校と大学・短大との違い	3
3. 専門学校で学ぶ意味	4
4. 進路選びの留意点	5
5. F S G 学校生活サポートの実例	6
6. F S G カレッジリーグの安全管理状況について	7
7. 保護者との連携	8
8. 高校時代に行っておくこと	10

1. 専修学校とは・・・

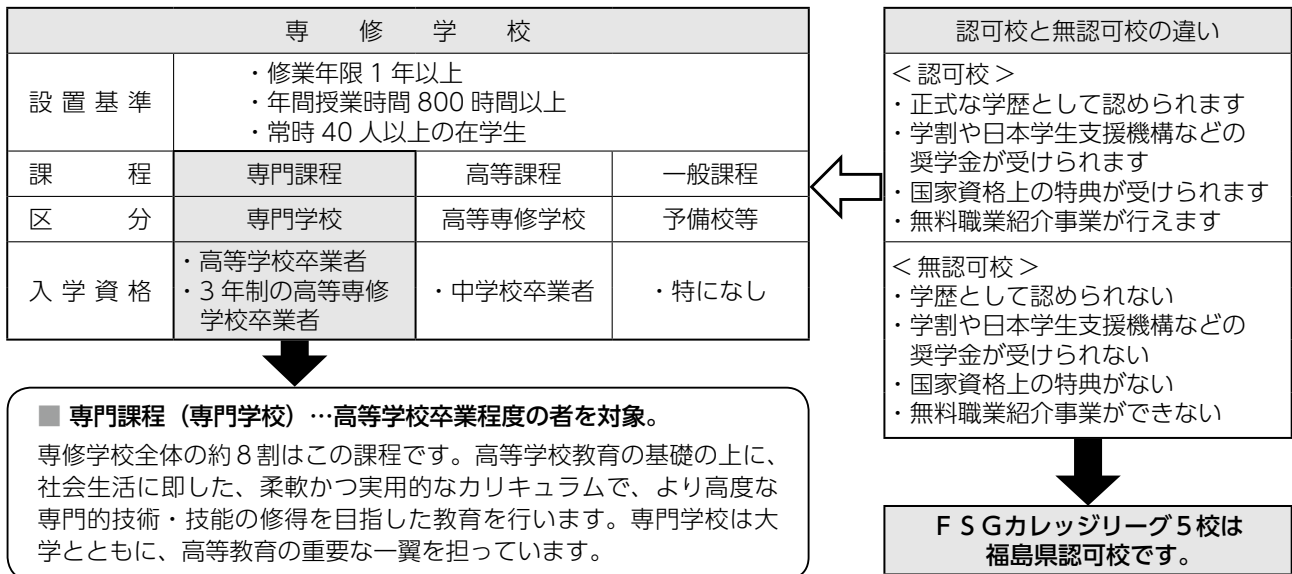
職業や最新技術に関連する、専門性の高い実務教育、もしくは実生活に必要な能力を育成、または教養の向上を図るための学校群です。

専修学校制度は、学校教育法の改正により1975（昭和50）年7月に公布され、翌1976年1月から、修業年限等を定めた専修学校設置基準とともに施行されました。

専修学校は、入学資格の違いによって「高等課程（中卒者対象）」「専門課程（高卒以上対象）」「一般課程（入学資格規定なし）」の3つの課程に分けられています。

専修学校は、その教育分野によって「工業」「農業」「医療」「衛生」「教育・社会福祉」「商業実務」「服飾・家政」「文化・教養」の8つの分野があります。

専修学校は「授業時間数」「教員数」「施設・設備」などの一定基準を満たしている場合に、都道府県知事の認可を受けて設置されます。



■ 卒業者に「専門士、高度専門士」の称号が付与されます

大学卒業者には「学士」、短大卒業者には「準学士」というように専門学校卒業者には「専門士」、「高度専門士」の称号が付与されます。

専門士

以下の要件を満たしている学校（学科ごとに指定）を卒業した者に、文部科学大臣告示により「専門士」の公的称号が付与されています。

1. 修業年限2年以上であること
2. 課程の修了に必要な総授業時数が1700時間以上であること
3. 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

高度専門士

以下の要件を満たす学校（学科ごとに指定）を卒業した者に、文部科学大臣告示により「高度専門士」の称号が付与されます。

1. 修業年限4年以上であること
2. 課程の修了に必要な総授業時数が3400時間以上であること
3. 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること
4. 修業年限の期間を通じた体系的な教育課程の編成がされていること

大学(院)編入

また、以下の要件を満たす専門課程の修了者は、1999（平成11）年4月から大学に編入学できることとなりました（大学入学資格を有する者に限る）。

1. 修業年限2年以上であること
 2. 課程の修了に必要な総授業時数が1700時間以上であること
 3. 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること
- さらに、「高度専門士」の称号を付与された者は、大学院への入学が認められます。

2. 専門学校と大学・短大との違い

※教育目的／授業内容／単位・授業数と称号

	大 学	短 期 大 学	専 門 学 校
設置校数	●国立=86校 ●公立=92校 ●私立=595校 ※2009年5月現在 ＜文部科学省調べ＞	●国立=2校 ●公立=26校 ●私立=378校 ※2009年5月現在 ＜文部科学省調べ＞	●国立=11校 ●公立=204校 ●私立=3133校 ※2009年5月現在 ＜文部科学省調べ＞
就業年数	●4年間 ●医学部・歯学部・獣医学部・薬学部の一部は6年間	●2年間 ●一部の医療系、教育系などは3年間	●1～4年間
教育目的	●幅広いテーマを専門的・学問的に研究し、応用能力の育成をめざす。	●専門分野の知識習得とともに、職業または実際の生活に必要な能力を育成する。	●職業や实际生活に必要な知識・技能を育成し、教養を深める。
授業内容	●専門的なテーマを追求する専門科目のほか、教養的な知識を修得する教養科目もあり、幅広く学ぶことができる。	●専門分野を研究する専門科目に加え、実社会に役立つ実務教育に力を入れている。	●総授業数の8割が専門教育となっており、即戦力となる知識や技能を習得するための実習、また資格取得に向けたカリキュラム。
卒業までに必要な単位数または授業時間数	●124単位以上 ●医学または歯学に関する学科は6年以上の在籍と188単位以上 ●獣医学に関する学科は6年以上の在籍と182単位以上 ●講義は15時間～30時間、実験・実習・実技は30時間～45時間をもって1単位とする ●卒業するには「学士」の学位が与えられる	●3年制は93単位以上 ●講義は15～30時間、実験・実務・実技は30～45時間をもって1単位とする ●卒業するには「短期大学士」の学位が与えられる。	●年間授業時間数が800時間(夜間は450時間)以上 ●修業年限が2年以上で、総授業時間数が1700時間以上の課程を卒業すると「専門士」の称号が与えられる ※修業年限が4年以上で、総授業時間数が3,400時間以上の課程を卒業すると「高度専門士」の称号が与えられる。
学部・学科編成	●学部・学科編成が一般的 ●学科の中にコースを設置するところもある	●学部を設けず学科単位で編成 ●学科の中にコース・専攻を設置するところが多い	●目指す職業分野に沿った学科・コースを編成 ●学科名がそのまま職業・業界名を表している場合が多い
学費	●私立校の初年度納入金の平均は約150万円 ●医学部・歯学部などは1000万円以上必要なところもある	●私立校の初年度納入金の平均は約120万円 ●入学後、制服代や実習費などが別途必要な場合がある。	●私立校の初年度納入金の平均は約120万円 ●入学後、実習費や実習機器代などが別途必要な場合がある
大学・短大との違いからみた専門学校の利点	point1 ・修業年限が短い	point2 ・授業内容は技術や技能の実習が中心で実践向き	point3 ・取得可能資格が多い

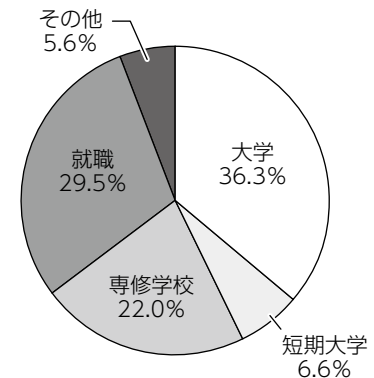
■ 福島県・高卒者の進路状況

◆高等学校卒業者の進路 (平成17年～平成21年)

年度	卒業生数	大学進学	短大進学	専修進学	就職	その他
平成17年	23,772	7,177	1,657	6,372	6,797	1,769
平成18年	22,449	7,231	1,525	5,866	6,590	1,237
平成19年	22,209	7,582	1,455	5,365	6,661	1,146
平成20年	20,833	7,421	1,347	4,440	6,538	1,087
平成21年	20,214	7,341	1,328	4,444	5,961	1,140

※資料：学校統計要覧

◆卒業後の進路比率 (平成21年度参照)



3. 専門学校で学ぶ意味

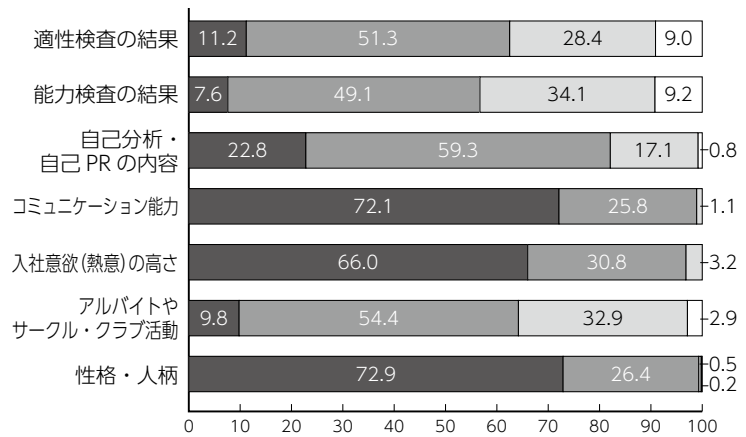
近年、若者たちの職業意欲の低下や離職率の高さが問題になっています。ですから、企業は採用職種に対するスキルの適性だけでなく、社会人としての基本的な心構えを学生に求めています。

企業が学生の採用にあたって、重視しているポイントがわかるデータをご覧下さい。傾向として「コミュニケーション能力」や「入社意欲の高さ」、「性格・人柄」といった「人間力」を重視している事がわかります。

F S Gカレッジリーグではいち早くこれに着目し、専門スキルの習得とともに「人間力」の育成にも力を入れています。

●内定を出す際に重視する項目

■非常に重視する ■比較的重視する ■あまり重視しない □全く重視しない



(※毎日コミュニケーションズ「2010年卒 内定状況及び採用活動に関するアンケート」より)

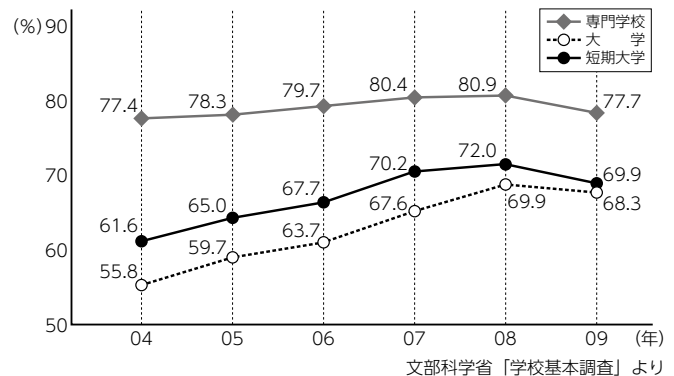
■希望分野のスキルがしっかり身につく、即戦力が身につく専門学校。

文部科学省の最新の学校基本調査によると、2009年3月に大学を卒業した者の就職率は68.3%、短期大学は69.9%、専門学校(専門課程)卒業生は77.7%となっています。

比較すると、専門学校は大学に対して9.4ポイント、短期大学に対しては7.8ポイントと大きく差をつけており、「不況下の就職に強い専門学校」を実証しています。

さらに、2008年に専門学校を卒業した就職者の合計は189,106人、そのうち関係分野に就職した者は176,634人です。専門学校を卒業した学生の93.4%が関係分野に就職しています。それは学生の希望分野への就職を実証しています。

●専門学校・大学・短期大学卒業生の就職率の推移



文部科学省「学校基本調査」より

■「やりたい職種」が明確で「即戦力となる」専門学校生。

企業の採用トレンドとして、就職・業務が細分化した「就職別採用」を導入するケースが着実に増えています。従来のような、総合職や一般職という大まかな区分での採用を避ける傾向にあります。これは、企業が採用にあたり、学歴よりも職種や業務に対する専門知識、技能、さらには経験などを重視している傾向の現れです。この傾向は専門学校生が就職するにあたり、ますます有利であることを裏づけています。



専門学校生の場合、「この仕事がしたい!」という明確な希望があって学校に入学し、その職種に就くための専門知識や高度なスキルを習得し、即戦力を身につけます。

このように企業が求める高度なスキルや能力を持つ専門学校生は、即戦力として企業の評価も高いので、不況下の就職にも強く、大学生・短大生より高い就職率を維持しているのです。

■専門学校卒業生の6割以上が仕事・待遇面で大卒との差を感じていません。

ダイヤモンド社が専門学校卒業生を対象に2004年9月に行った調査によると、入社してから、「仕事・待遇面で大卒者との差を感じているか」という質問に対し、「差を感じない」という人は6割を越え、「差があり不満だ」という人は3割に満たないという結果が出ています。企業の多くが専門学校卒業生を高く評価し、大卒者との仕事・待遇面での差が無くなってきていると言えるでしょう。

4. 進路選びの留意点

就職氷河期であった2009年の専門学校の就職率は78.2%、2010年の就職率は76%、同年の大卒の就職率は55.1%で過去最低となった。このため、大学に進学すれば就職が可能と言われた時代は過ぎ去り、何を学び何ができるかが問われる時代に突入したと言えます。

つまり、大学全入時代と言われる今、採用側の企業の立場からみると大学という学歴に価値観が薄れ、学歴ではなく「学習歴」に価値観が移行しています。企業側はそれぞれの業務内容に応じて必要な学習歴(能力)を自由に選択できる優位な環境であり、大学や専門学校は選択される商品になっています。

■ 進路選びの留意点

進路選びは誰でも悩みます。少し大げさかもしれませんがその後の人生にも大きく影響する大事な事柄だと思えます。そこで、**大学や専門学校**のどちらに適しているかを**選ぶポイント**をご紹介します。

◆自分の目的に合った学校を選ぶ

大学や専門学校には教育目的があります。**大学は未来に向けた学術・研究**を主体とし、**専門学校は就職に役立つ実務技能**を目的としています。このため、**大学は教授、専門学校は業界プロ**が指導にあたります。また、カリキュラムも概論から学ぶ大学と、実践から学ぶ専門学校と授業に違いがでてきます。この他にも教育の特色はさまざまです。学校のちがいを比べながら自分の目的に合った進路や学校を選ぶことが大切です。

◆目指す職業をイメージして学校・学科を選ぶ

進路選びは、たとえ学ぶ分野が同じでも大学や専門学校では授業内容、指導方法や教材、教員、実習時間や実習先(職場)など大きく異なります。即戦力として就職に役立つ内容を専門技術を十分習うことができるかどうかは、教育内容や学習環境によって大きく左右されます。専門学校は特定分野に特化した教育を行っているため、大学のような転部・転科制度はなく、履修途中で他の学科・コースに変更することはできません。このため、進路選択にあたり、将来自分が**どんな職業に就きたいか**を意識し、内容をよく理解したうえで進路選択をすることが大切です。

◆就職支援体制は・・・

原則、**大学は就職活動や採用試験対応などに対し、自己管理のもとで活動**が求められてきます。これに対し**専門学校では担任や就職指導担当者などが就職活動に対して全般的に支援サポート**を行います。進学の本最終目的とも言える就職支援体制の充実を知っておくことも、大学や専門学校選びの決め手になります。就職研修システムや就職指導体制など、卒業後に向けたプログラムやサービスが充実しているかも、よく確認が必要です。

◆進学費用は・・・

進学にあたり入学金や授業料の他にも交通費、生活費など様々な費用が必要となってきます。更に親元を離れて一人暮らしをする場合にはアパートの賃借料や食費、光熱費などより一層の費用が必要となります。**首都圏への進学の場合、賃借料を含めた生活費は約15万円/月くらい**と言われており、かなりの出費が考えられます。進学にあたっては経済的負担を軽くするため**奨学金制度や特待生制度**を確認し、余裕をもった資金準備が大切です。

◆将来の就職地を意識する

進路選択にあたり学校・学科選びと同様に将来の就職地を意識しておくことが重要です。就職年次を迎えると就職活動が活発になってきて、会社訪問や採用試験など様々な活動が求められてきます。この際、地元に進学し地元就職を希望する場合は比較的スムーズな就職活動が可能ですが、逆に首都圏や県外に就職を希望する場合は早めの行動と活動費用が必要となってきます。更に首都圏や県外に進学しUターン就職を希望する場合は幾度となく地元へ戻っての活動が必要となり、経費や労力が多大になると考えられます。原則として**進学した地域で就職活動することが情報収集的にも費用、労力的にも断然有利**であると言えます。このため、大学や専門学校選びの決め手として将来の就職地を意識しておくことも大切です。

◆オープンキャンパスを活用する

実際に学校の体験入学やオープンキャンパスに参加して疑問点や不安点、入学案内に載っていない内容などを確認することが必要です。実際に学校にいったみると**教育環境や雰囲気**をよりイメージしやすくなります。積極的に見学をして、進学後に勘違いや迷いが無いよう、カリキュラムや学校生活を確認することが必要です。

5. F S G 学校生活サポートの実例

F S G カレッジリーグは、日本一面倒見の良い学校を目指しています
就職活動はもちろん、普段の学校生活もサポートしています。
学生にとって学びやすい環境であるために、様々な支援体制や制度があります。



クラス担任制

学生をサポートするクラス担任制。学習面から学校生活まで学生一人ひとりと向き合います。



プロ講師の指導

各業界で活躍する一流プロ講師の指導による最新の教育環境が整っています。



早期就職研修

入学後間もなく就職指導がスタートします。就職に必要なノウハウを1年次から身につけていきます。



インターンシップ制度

就職前に企業の就業経験ができるため、積極的にインターンシップを取り入れています。



校内企業説明会

各学校では、専門分野の企業による就職説明会を開催しており、毎回多くの学生が積極的に参加しています。



就職情報ネットワーク

F S G 独自の就職情報サイトで、学校内はもちろん、自宅でも就職情報を入手できます。また、各種証明書の発行もできます。



ビジネスマナー研修

企業が求める「人間力」を身につけるために、職業人として必要な身だしなみのポイントから社会の中で必要なマナーを学びます。



特待生制度・奨学金制度

金銭的理由で進学をあきらめさせることのないよう学校独自の特待生制度、F S G オリジナルの奨学金制度を用意しています。



学生寮完備

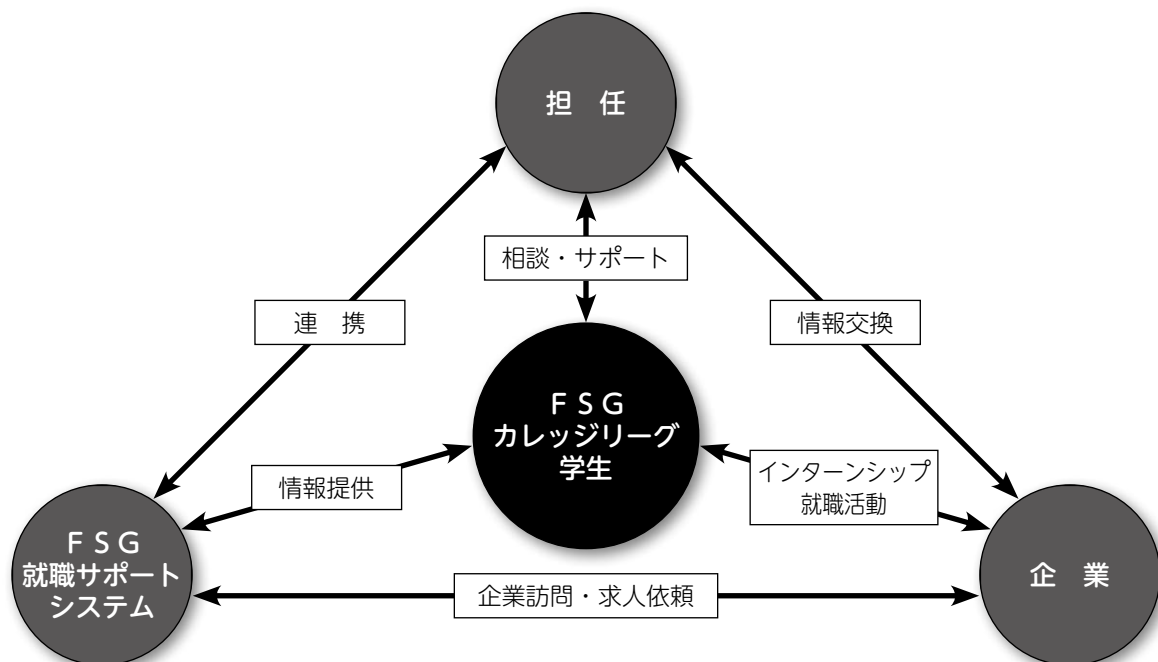
F S G 各校から徒歩圏内にある学生寮。一人暮らしの不安を解消します。アパートを希望する方への紹介も行っています。



再就職支援制度

卒業後に離職したとしても、F S G 各校では求人案内の提供、就職活動のサポートを行っています。

就職サポート体制



6. F S Gカレッジリーグの安全管理状況について

■リスク管理委員会の設置

在校生の安心・安全な学習環境を整えるために、F S Gカレッジリーグ5校の教職員の代表でリスク管理委員会を構成し、学校生活における様々な事例を想定し、危機的状況の回避を目指して取り組みを推進しています。

避難訓練

避難訓練の実施

毎年、各校で6～7月に避難訓練を実施しています。

3月11日の東日本大震災におきましても、例年の訓練経験にて、迅速な避難行動により、在校生、教職員全員無事に避難することができました。

個人情報保護研修

教職員研修を実施

教育機関は、学生並びに保護者のみなさまの個人情報が氾濫しています。

F S Gカレッジリーグでは、個人情報の定義・個人情報保護法の内容理解、保管方法の確認等、教職員に研修を実施しています。

キャンパスセクシャルハラスメント防止

教職員の研修と対応

教職員に研修機会を設定し、防止啓発に努めております。

更に苦情、申告、被害等の相談に対応できるよう、クラス担任と学内対策委員のメールアドレスを明示。即時対応、プライバシー保護に配慮した対応をしております。

薬物防止研修

薬物の危険性を啓発

若年層への覚せい剤等薬物の流通は社会的問題となっております。

学生が薬物流通へ関与しないよう、教職員向けに保健所の担当を講師として研修を実施し、薬物の危険性を啓発しております。更に薬物危険性のポスターを各校に掲示しています。

学生の日常生活について

学生の手引きを全学生に配布

代表的な危機管理（リスクマネジメント）事例を「学生の手引き」という便覧に対応方法を要約し配布しています。

また、万が一の際に混乱しないよう指導をしております。

【代表的な事例】

≪盗難被害に遭わないように≫
≪女性が安全に暮らす為に≫
≪交通事故に遭ったら≫等

HeartsaverAED 講習

心肺蘇生法・AED講習

心肺停止状態の学生を救命するために必要な心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の使用方法を取得し、蘇生技術の習得を図るため、毎年8月に講習を実施しています。

スクールカウンセリング制度

定期カウンセリング

外部スクールカウンセラー（臨床心理士）が、校内で定期的にカウンセリングを実施しています。

学生本人だけでなく、ご希望があれば保護者の方もカウンセリングを受けることができます。

防火管理者

防火管理者の設置

消防法に基づいて、防火に関する講習会の課程を修了した防火管理者を各校に設置しています。防火管理者は消防計画の作成や提出、消防訓練の企画等、防火に関する業務に取り組んでいます。

施設・設備・備品点検

安全・快適な環境づくり

毎月のエレベーター・電気設備点検をはじめ、半年に1度の消防設備点検、年に1度の全施設・全備品の点検等、学生が安全・快適に学習できる環境づくりを徹底しています。

7. 保護者との連携

■ 出欠席について

出席率は非常に重要です。欠席が多くなればなるほど授業についていくことが難しくなります。(補講対応はいたします。) また、養成施設要件の関係で学科毎に基準が異なりますが、成績評価・進級条件・卒業条件には授業時間数の90%以上^{*}の出席率が必要になります。就職試験に際しても欠席日数が少ないほど有利になることは間違い無く、自己管理・健康管理が重要です。(企業は、その学生がどのような学生生活を送ったか等を注視しています) 遠隔地から通学する学生は高校時代に比べかなり朝早く起きなくてはならない状況であり、後期になり遅刻が増える傾向がありますので早起きの習慣を持続するよう保護者の皆様のご協力をお願いいたします。遅刻・欠席は長期の休み(GW・夏休み・冬休み)明けの時期に多く発生する傾向にあります。出席状況に変化が見られた場合には、担任が直接保護者に連絡を差し上げますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

※出席率などの条件は各学校にご確認下さい

■ 自家用車通学について

学生の安全面を考慮し可能な限り公共交通機関を利用するようにして下さい。ただし、公共交通機関での通学が困難など、やむを得ない事情がある場合は自家用車での通学も認めておりますので、担任に申し出て所定の手続きを行い許可を受けるようにして下さい。

詳しくは、各学校までお問い合わせ下さい。

■ アルバイトについて

アルバイトについては、事前に必ず担任に報告するように指導しています。学生生活を送る上で、学生の身分にふさわしくないアルバイト(勤務が深夜に及ぶもの等)、違法行為、危険を伴うもの(夜間警備員等)は禁止しています。学生生活の本分は勉強にありますので、成績や出席状況が悪化した場合にも、アルバイトを禁止します。また、各学科により検定試験前にはアルバイトを禁止する期間があります。

■ 一人暮らしについて

初めての一人暮らしは誰でも不安が一杯です。規則正しい生活習慣、健康管理が重要です。自己管理ができず、体調をくずしたり、寝坊して遅刻が増えるケースも見られます。さらに、開放的になり遊興に心を奪われ、学生の夢の実現に支障がでる場合もあります。犯罪被害やストーカー被害を防止する点からも、定期的に連絡を取り合ってくださいと思います。

■ リスクマネジメント（事件・事故・悪徳商法などの被害防止）について

被害に遭った場合には速やかな対応が必要です。民事・刑事などの法律の知識が必要になる場合もあります。事件・事故・犯罪などの被害から学生を守っていくために専任のスタッフを配置しておりますので、何なりとご相談下さい。

■ キャンパスセクハラ防止について

セクシャルハラスメント（セクハラ）は、人としての尊厳を侵害する重大かつ不当な性差別行為であり、容認できるものではありません。苦情・相談については担任の他、学内対策委員に電話・対面・Eメールで相談・申告できます。なお、本校関係者（学生、職員、インターンシップ先、業者など）の全てを対象としています。

■ 人間関係・精神面について

近年入学してくる学生は、人間関係で悩む学生が増えているように思われます。専門学校への進学で仲の良かった高校時代の友人と別々になったり、親元を離れ一人暮らしを始めたり、新しい友人が作れるか等の不安を抱えて入学する学生がほとんどです。人間関係がうまく行かず登校拒否になってしまうケースもごく少数ですが存在します。本校では、全クラス担任制を取っており、またカウンセリング制度や授業カリキュラム等で学校全体で学生の精神面でのフォローをしています。

■ 早期の対応

夢や目的を持って入学してきた学生に対し、その実現の為にサポーター役が保護者であり学校であると考えます。保護者と学校の連携が何より大切です。学生の言動や表情の変化を見逃さず早め早めに対処してまいります。おかしいなと思ったらすぐに保護者に連絡をさせていただきます。また、ご家庭で心配な点などがありましたら遠慮なく担任まで連絡をいただきたいと思います。

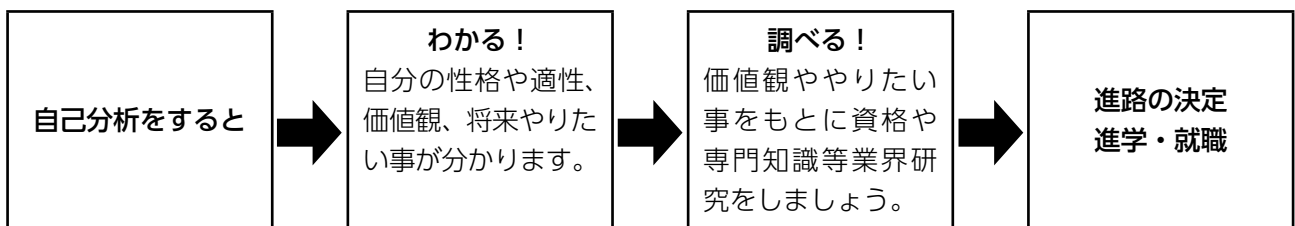
8. 高校時代におこなっておくこと

① 自己分析からはじめましょう。

これからの人生の方向性を決める進路決定の為、自分の長所や適性、価値観等をじっくりと見つめ直し、何が向いているのか、何をやりたいのかをしっかりと認識する事が大切です。

◆自己分析で自分に問い掛ける6つの項目

- ①自分の性格や適性、能力はどのようなものか
- ②自分の知識、専門性はどのようなものか
- ③就職する為の準備は整っているか（資格・知識）
- ④就職・進学して何をしたいのか、何をやりたいのか
- ⑤達成したい目標、人生の夢は何か
- ⑥物事を判断する時に、何を基準にどのように決定するか



自分自身で考えさせ、
お子様が出した答えを一緒に考え、
サポートしてあげることが大切です。

② 働く事を考えてみましょう。

皆様は、「働く」就職するという事についてどのように考えていますか？「卒業したら働くのが当たり前！」「それなりの会社に入らないと格好悪い」と安易に就職を考えてはいないでしょうか？

就職は人生を考える上で大切な問題です。毎日の生活を豊かに、有意義に過ごすためにも、自分らしく生きがいややりがいを持って働けるように、働く意義をしっかりと理解しましょう。

③ 働く事を考えてみましょう。

- ①規律を守る
 - ・ 職場のルールやマナーに従って行動する
 - ・ 上司の指示・命令に従う
- ②自己管理をする
 - ・ 健康管理は自分の責任
 - ・ 感情をコントロールする(感情がそのまま表に出るようでは社会人失格)
- ③目的意識をもつ
 - ・ この仕事の目的は何かを意識しながら仕事を進める
 - ・ 社会や所属する部署の方針や目標を把握しておく
- ④原価意識を持つ
 - ・ すべてのものにコストがかかっていることを意識する
 - ・ 時間、物、経費のムダをなくす
- ⑤人間関係を大切に
 - ・ 他のメンバーと協力し合いながら仕事をすすめる
 - ・ 社内だけでなく、お客様、取引先との人間関係にも配慮する
- ⑥顧客意識
 - ・ 誰がお客様で何を求めているかを意識する
 - ・ どうしたらお客様に満足してもらえるかを考え行動に移す
- ⑦改善意識
 - ・ 仕事に慣れてきたら、決められた仕事だけをこなすだけでなく、創意工夫をする
 - ・ いかに効率よく、早く、楽しく、コストをかけずに作業するか考える



FSG カレッジリーグ 2012

オープンキャンパス & 保護者説明会

FSG カレッジリーグ 2012 オープンキャンパス & 保護者説明会 日程

開催時間 10:30 ~ 13:00

※7/23(土)のみ10:30~14:00

- | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 5/14(土) | <input type="checkbox"/> 7/23(土)* | <input type="checkbox"/> 10/1(土) | <input type="checkbox"/> 1/21(土) |
| <input type="checkbox"/> 5/28(土) | <input type="checkbox"/> 7/30(土) | <input type="checkbox"/> 10/22(土) | <input type="checkbox"/> 2/4(土) |
| <input type="checkbox"/> 6/11(土) | <input type="checkbox"/> 8/6(土) | <input type="checkbox"/> 11/12(土) | <input type="checkbox"/> 2/18(土) |
| <input type="checkbox"/> 6/18(土) | <input type="checkbox"/> 8/20(土) | <input type="checkbox"/> 11/26(土) | <input type="checkbox"/> 3/3(土) |
| <input type="checkbox"/> 6/25(土) | <input type="checkbox"/> 9/3(土) | <input type="checkbox"/> 12/10(土) | <input type="checkbox"/> 3/17(土) |
| <input type="checkbox"/> 7/9(土) | <input type="checkbox"/> 9/17(土) | <input type="checkbox"/> 12/17(土) | <input type="checkbox"/> 3/24(土) |



郡山情報ビジネス専門学校

- ◆医療情報科◆医療秘書科◆調剤ビジネス科
- ◆歯科アシスタント科◆医療事務科
- ◆デジタル情報ビジネス科◆オフィスビジネス科
- ◆会計ビジネス科◆税理士本科◆経営流通ビジネス科
- ◆スポーツビジネス科◆ブライダルプロデュース科
- ◆国際観光科◆公務員科◆公務員短期受験科

〒963-8002 郡山市駅前1-12-2
☎0120-1984-41
www.jo-bi.gr.jp
E-mail jo-bi@fsg.gr.jp



検索ワード 検索



国際アート&デザイン専門学校

- ◆グラフィックデザイン科◆イラストレーション科
- ◆インテリアデザイン科◆ミュージック・音響科
- ◆音楽・放送ビジネス科◆マンガクリエイト科
- ◆コミックイラスト科◆CGアニメーション科
- ◆声優科◆マンガ専攻科

〒963-8811 郡山市方八町2-4-1
☎0120-262-874
www.art-desgin.ac.jp
E-mail ad@fsg.gr.jp



検索ワード 検索



専門学校 国際情報工科大学校

- ◆1級自動車工学科◆自動車車体工学科◆自動車工学科
- ◆モータースポーツ科◆自動車研究科◆ゲームソフト開発科
- ◆ゲームシステム科◆情報システム工学科◆情報システム科
- ◆Webアプリケーション科◆医療情報システム科
- ◆電気応用技術科◆電気電子工学科◆3D-CADデザイン科
- ◆地域環境学科◆建築CAD設計科◆建築士専攻科

〒963-8811 郡山市方八町2-4-15
☎0120-454-443
www.wiz.ac.jp
E-mail wiz@fsg.gr.jp



検索ワード 検索



厚生労働大臣指定 医療専門課程

国際メディカルテクノロジー専門学校

- ◆言語聴覚士科◆救急救命士科◆臨床工学技士科
- ◆鍼灸師科◆看護学科◆看護学科通信課程

〒963-8811 郡山市方八町2-4-19
☎0120-160-956
www.i-medical.jp
E-mail imedical@fsg.gr.jp



検索ワード 検索



厚生労働大臣指定 美容師養成施設

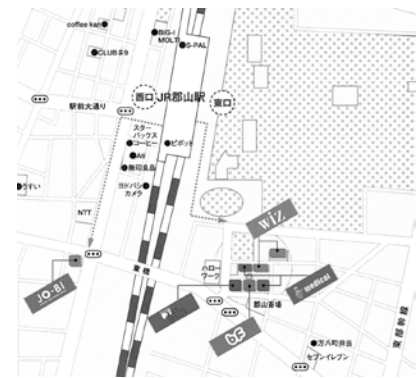
国際ビューティ・ファッション専門学校

- ◆美容学科◆トータルビューティ科
- ◆ブライダルビューティ科◆ファッションデザイン科
- ◆ファッションビジネス科◆ファッション専攻科
- ◆美容学科通信課程

〒963-8811 郡山市方八町2-4-21
☎0120-442-335
www.b-f.ac.jp
E-mail bf@fsg.gr.jp



検索ワード 検索



FSGカレッジリーグ

wwwwh-fsg.com

FSG

検索